

1. 評価報告概要表

作成日平成20年12月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4071400594
法人名	株式会社 西日本介護サービス
事業所名	グループホーム ウイズライフ西新
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市早良区城西2丁目9番18号 (電話)092-841-8377

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年12月22日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(20年9月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	22人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.9人

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	1階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000~70,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	380,000円	有りの場合 償却の有無	3年	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	25名	男性	4名	女性	21名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	10名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	75歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	三恵外科・山茶花在宅クリニック・前田歯科・たけとみクリニック・金隈病院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は福岡市と福岡近郊にホームを運営しているが、当ホームは設立より7年程経過している。職員および利用者は地域の行事や活動に参加し地域に溶け込み地域の一員として暮らしている。法人内では、積極的に職員のスキルアップを図る為の勉強会や研修等を計画的に開き、ホームの質やサービスの質の向上に努めている。管理者、職員共にホームの現状について理解しており、良いホームを目指している姿があり、その中で暮らす利用者の表情は穏やかで出来る力を活かしながら楽しく生活している様子が窺い知れた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善点について、全職員で話し合い取り組みを行っている。改善項目は権利擁護事業の理解であったが、職員が周知理解できるように研修を行いパンフレット等も準備している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットで、自己評価、外部評価の目的や取り組みについて話し合い、評価項目を書き込み更に全体で話し合いを行い、出来ていること、出来ていないことを確認し、ホーム全体で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	地域代表者、民生委員、家族代表、利用者代表、地域包括支援センター担当者、職員等が出席し、ホームの現状、活動、行事等の報告や家族からの意見の聴き取りを行いサービスの向上に繋げている。また、民生委員との意見交換を行い運営推進会議を有意義なものにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法(運営への反映(関連項目:外部8,9))
	面会時に気軽に話が出来環境づくりを行うと共に、電話や電子メールにて意見等を聴き取っている。意見が出た場合はミーティングにて話し合い対応している。また、1年に1回家族会を開きホームの報告、予定等の伝達を行い、家族から意見や要望を聴き取っている。
重点項目	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)
	町内会に入会し清掃活動や運動会等に積極的に参加している。公民館行事の食進会に参加し料理を作り地域の方々と交流を図っている。また、月に1回地域交流行事として、子どもたちがホームに訪れ利用者と昔の遊びを一緒に楽しみ伝承の機会を作っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体共通の企業理念とホームの基本理念を掲げている。企業理念には「地域の方々と一緒に暮らし地域と密着する」との意味合いのものと、基本理念には「自分らしく笑顔で最後まで「暮らすこと新しい家族」として関わっていく」という内容となっている。また、各ユニットごとに標語を掲げ、ケアの目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時の研修にて理念の説明を行い、ホームミーティング時に話し合いをしている。また、各ユニットに掲示している標語「このままでよからうもん」等利用者と職員が共に生活していく中で共有できるよう取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の行事や清掃活動、防災訓練等利用者と共に積極的に参加している。リサイクルボックスの担当を受け持っている。また、月に1回地域の子どもたちと利用者が昔の遊びを一緒に楽しみ、伝承していく機会を作っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について管理者が職員に説明し、各ユニットで話し合いを行い、自己評価を書き込んだ。また、出来ていること、出来ていないことを確認し全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は自治会会長、民生委員、地域住民代表、家族代表、利用者代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員等で、家族からの意見の聴き取りを行い改善に向け話し合っている。ホームの現状や取り組み等の報告や民生委員との意見交換をし、よりよいホーム作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットや通信を届け、ホームの行事の案内等を行い、いつでも連携が取れる関係を作っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームにて勉強会を年に3回実施し、職員が全員参加できるように全員の周知、理解を図っている。家族が必要な時に利用できるようなパンフレットを配布している。各ユニットにパンフレットを置いている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や近況報告を行っている。月に1回は通信を送付しホームでの暮らしぶりを伝えている。また、状態変化時には電話や電子メールにて報告している。金銭に関しては、立替制にしており、利用料と共に領収証を送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を聞き取り職員会議にて話し合い対応している。運営推進会議や家族会にて家族からの意見を聞き取り、サービス向上に向け取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内とユニット間での異動は必要に応じあるが、法人全体での行事等で利用者と職員が触れ合う機会が多い為顔見知りとなっている。離職の場合は職員同士で引継ぎを行い、担当の利用者の情報を充分把握できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用時に1日職場体験をしてもらいホームの様子を把握できるようにしている。職員の特技や、趣味を業務や行事で活かしている。また、職員の休日等の希望を聞き取り働きやすい環境を作っている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	法人全体での研修や外部研修に参加し、利用者の尊厳について確認している。ホームでは、職員に利用者への対応等振り返ってもらい、全員で話し合いをしている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人全体の研修は定期的開催され参加している。また、法人内でホーム毎に研修会を持ちまわり制にしており毎週1回は勉強する機会を作っている。外部研修の参加の希望を取り、報告書等も閲覧できるようにしている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に入会し職員と管理者が参加し情報交換を行い、ホームの通信を配布し行事等を案内し交流の機会を増やしネットワークづくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族の見学や自宅へ管理者と職員が訪問し利用者と顔見知り関係を作っている。体験利用(約1週間)を行い本人の様子を家族へ報告したり、家族へ対応等確認し、本人が馴染めるよう配慮している。</p>		
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が利用者に相談することがあったり、昔の生活の知恵を教えてもらったりし家族のような関係を構築している。料理の際に利用者に味付けをしてもらいそれがきっかけで利用者が調理を思い出し料理をするようになったこともある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活歴から現在の状態までの情報を収集し、本人、家族との面談にてどのように暮らしたいか聴き取っている。また、職員が利用者の立場になり1日体験をすることで利用者の気持ちを把握する参考としている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者がアセスメントを元に計画の原案を作成し、家族からの要望等を取り入れ、主治医の意見を参考にサービス担当者会議を開き計画を作成している。全職員は計画書を確認しケアを提供している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月、6ヶ月を目処に見直しを行っている。職員、計画作成者などで本人、家族の要望等を聴き取り話し合いを行い計画を見直し、状態の変化の際にも即座に見直ししている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿い可能な限り個別対応を出来るよう支援を行っている。緊急時の受診の付き添いや地域の子どもたちとの触れ合いの機会を作っている。また、ショートステイの受け入れを行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々である。協力医は毎日ホームを訪れ利用者の状態の把握を行い、状態の変化に対して対応している。また、受診時の付き添いを行い利用者の健康への支援をしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関しての指針に基づき家族へ説明し、家族の確認と同意書を交わしている。利用者の状態によって家族とその時々で話し合い対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との会話や対応には個人の尊厳を守り配慮している。個人記録は各ユニットのステーション内に保管しステーション入り口に鍵を掛けている。利用者の写真等掲示、掲載に関しては口頭にて同意を得ている。		個人情報の取り扱いに関して同意書を交わしているものの、写真の取り扱いについての同意書が明らかでは無い為、同意書を交わし個人情報の取り扱いに万全の態勢を取ることが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を利用者で話し確認し、3ユニットで協力し利用者のペースや希望に合わせて過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食べたいものの希望をとり、買い物や調理を利用者と職員と一緒にしている。配膳や後片付けも出来る力を活かしている。利用者と職員が同じものを同じ時間に摂り楽しい会話をし楽しく和やかな時間を作っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の決まり等なく自由に入浴できる。入浴を嫌がる利用者には、さげなく声をかけ気持ちよく入浴してもらうよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみ等利用者にあった役割がある。また、花を植えたり手芸を楽しんだりと本人の趣味や特技を活かし過ごしている。行事やレクリエーション等の機会も多く季節感のあるものや地域の行事に参加することで楽しみを支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーマーケットへの買い物等利用者の希望や要望にて支援している。また、商店街に出かけたついでに食事をして帰ってくることもあり個別対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関、各ユニットの玄関は施錠しておらずいつでも自由に行き来できるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の夜間想定を含めた訓練を実施している。その際に消防署に立ち会ってもらい、利用者の避難場所等助言をもらっている。近隣の方達やタクシー会社との協力体制が取れており災害時にタクシーに連絡が入るようになっており近くにいるタクシーが避難協力を行う体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による勉強会を開き職員が栄養摂取等の知識を習得している。また、必要に応じ主治医に相談、確認し本人に合った献立を提供している。食事摂取量のチェックは全利用者、水分に関しては必要に応じ記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関は季節の花や飾りが置かれており家庭的な雰囲気がある。リビングには利用者其々が寛げるようスペースがあったり季節感を感じることができる飾りつけを行なっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は本人の馴染みの物や思いのある道具を配置し個性的な部屋で入所前からの生活が継続できるように配慮している。		

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体共通の企業理念とホームの基本理念を掲げている。企業理念には「地域の方々と一緒に暮らし地域と密着する」との意味合いのものと、基本理念には「自分らしく笑顔で最後まで「暮らすこと新しい家族」として関わっていく」という内容となっている。また、各ユニットごとに標語を掲げ、ケアの目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社時の研修にて理念の説明を行い、ホームミーティング時に話し合いをしている。また、各ユニットに掲示している標語「このままでよからうもん」等利用者と職員が共に生活していく中で共有できるよう取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の行事や清掃活動、防災訓練等利用者と共に積極的に参加している。リサイクルボックスの担当を受け持っている。また、月に1回地域の子どもたちと利用者が昔の遊びを一緒に楽しみ、伝承していく機会を作っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について管理者が職員に説明し、各ユニットで話し合いを行い、自己評価を書き込んだ。また、出来ていること、出来ていないことを確認し全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者は自治会会長、民生委員、地域住民代表、家族代表、利用者代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員等で、家族からの意見の聴き取りを行い改善に向け話し合っている。ホームの現状や取り組み等の報告や民生委員との意見交換をし、よりよいホーム作りに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットや通信を届け、ホームの行事の案内等を行い、いつでも連携が取れる関係を作っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームにて勉強会を年に3回実施し、職員が全員参加できるように全員の周知、理解を図っている。家族が必要な時に利用できるようなパンフレットを配布している。各ユニットにパンフレットを置いている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状態や近況報告を行っている。月に1回は通信を送付しホームでの暮らしぶりを伝えている。また、状態変化時には電話や電子メールにて報告している。金銭に関しては、立替制にしており、利用料と共に領収証を送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を聴き取り職員会議にて話し合い対応している。運営推進会議や家族会にて家族からの意見を聴き取り、サービス向上に向け取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内とユニット間での異動は必要に応じあるが、法人全体での行事等で利用者と職員が触れ合う機会が多い為顔見知りとなっている。離職の場合は職員同士で引継ぎを行い、担当の利用者の情報を充分把握できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。採用時に1日職場体験をしてもらいホームの様子を把握できるようにしている。職員の特技や、趣味を業務や行事で活かしている。また、職員の休日等の希望を聞き取り働きやすい環境を作っている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	法人全体での研修や外部研修に参加し、利用者の尊厳について確認している。ホームでは、職員に利用者への対応等振り返ってもらい、全員で話し合いをしている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人全体の研修は定期的開催され参加している。また、法人内でホーム毎に研修会を持ちまわり制にしており毎週1回は勉強する機会を作っている。外部研修の参加の希望を取り、報告書等も閲覧できるようにしている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム協議会に入会し職員と管理者が参加し情報交換を行い、ホームの通信を配布し行事等を案内し交流の機会を増やしネットワークづくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族の見学や自宅へ管理者と職員が訪問し利用者と顔見知り関係を作っている。体験利用(約1週間)を行い本人の様子を家族へ報告したり家族へ対応等確認し、本人が馴染めるよう配慮している。</p>		
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員が利用者に相談することがあったり昔の生活の知恵を教えてもらったりし家族のような関係を構築している。料理の際に利用者に味付けをしてもらいそれがきっかけで利用者が調理を思い出し料理をするようになったこともある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の生活歴から現在の状態までの情報を収集し、本人、家族との面談にてどのように暮らしたいか聴き取っている。また、職員が利用者の立場になり1日体験をすることで利用者の気持ちを把握する参考としている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者がアセスメントを元に計画の原案を作成し、家族からの要望等を取り入れ、主治医の意見を参考にサービス担当者会議を開き計画を作成している。全職員は計画書を確認しケアを提供している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月、6ヶ月を目処に見直しを行っている。職員、計画作成者などで本人、家族の要望等を聴き取り話し合いを行い計画を見直し、状態の変化の際にも即座に見直ししている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿い可能な限り個別対応を出来るよう支援を行っている。緊急時の受診の付き添いや地域の子どもたちとの触れ合いの機会を作っている。また、ショートステイの受け入れを行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々である。協力医は毎日ホームを訪れ利用者の状態の把握を行い、状態の変化に対して対応している。また、受診時の付き添いを行い利用者の健康への支援をしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関しての指針に基づき家族へ説明し、家族の確認と同意書を交わしている。利用者の状態によって家族とその時々で話し合い対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者との会話や対応には個人の尊厳を守り配慮している。個人記録は各ユニットのステーション内に保管しステーション入り口に鍵を掛けている。利用者の写真等掲示、掲載に関しては口頭にて同意を得ている。		個人情報の取り扱いに関して同意書を交わしているものの、写真の取り扱いについての同意書が明らかでは無い為、同意書を交わし個人情報の取り扱いに万全の態勢を取ることが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方を利用者で話し確認し、3ユニットで協力し利用者のペースや希望に合わせて過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食べたいものの希望をとり、買い物や調理を利用者と職員と一緒にしている。配膳や後片付けも出来る力を活かしている。利用者と職員が同じものを同じ時間に摂り楽しい会話をし楽しく和やかな時間を作っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の決まり等なく自由に入浴できる。入浴を嫌がる利用者には、さげなく声をかけ気持ちよく入浴してもらうよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物たたみ等利用者にあった役割がある。また、花を植えたり手芸を楽しんだりと本人の趣味や特技を活かし過ごしている。行事やレクリエーション等の機会も多く季節感のあるものや地域の行事に参加することで楽しみの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーマーケットへの買い物等利用者の希望や要望にて支援している。また、商店街に出かけたついでに食事をして帰ってくることもあり個別対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関、各ユニットの玄関は施錠しておらずいつでも自由に行き来できるようにしている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の夜間想定を含めた訓練を実施している。その際に消防署に立ち会ってもらい、利用者の避難場所等助言をもらっている。近隣の方達やタクシー会社との協力体制が取れており災害時にタクシーに連絡が入るようになっており近くにいるタクシーが避難協力を行う体制となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による勉強会を開き職員が栄養摂取等の知識を習得している。また、必要に応じ主治医に相談、確認し本人に合った献立を提供している。食事摂取量のチェックは全利用者、水分に関しては必要に応じ記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関は季節の花や飾りが置かれており家庭的な雰囲気がある。リビングには利用者其々が寛げるようスペースがあったり季節感を感じることができる飾りつけを行なっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は本人の馴染みの物や思いのある道具を配置し個性的な部屋で入所前からの生活が継続できるように配慮している。		